

# 京都SDGsパートナー登録証



公益財団法人 京都市都市緑化協会は、  
SDGs、CO<sub>2</sub>ゼロに  
取り組むことを宣言します。

## ●2030年のSDGs達成に向けた目指す姿と運営・事業方針●

私たちは、緑化普及啓発、多世代が集う公園緑地の利用促進、希少植物保全や地域団体支援を本来業務としており、多様な人々の健康と福祉、気候変動対策、京都の生物多様性の確保に重要な役割を担っているとの自覚のもと、強い使命感をもって、京都内外の持続可能な地域社会・経済の実現に貢献する法人を目指します。

## ●SDGsに関する重点的な取組●

・緑地の良好な保全活用（目標番号11、13、15）  
気候変動対策、生物多様性の確保、防災、景観形成など良好な生活環境の面でますます重要となっている都市の緑を保全・創出するため、京都市緑の基本計画等に基づく、建物緑化を含む緑化推進、普及啓発活動、ビオトープや日本庭園を含む公園緑地の良好な管理を行う。

・緑地を活かした地域活性化と健康都市づくり（目標番号3、8）  
憩い、体力向上、交流等の場となる緑地の多面的な機能に注目し、公園緑地において、健康づくりや子ども・子育て世代向けの体験プログラム、個人の手作り品販売などの様々な機会を提供し、健康でいきいきした地域づくりに貢献する。

・グリーンインフラと雨庭の普及（目標番号6、11、13、15）  
グリーンインフラ（自然環境が有する多様な機能を、環境・経済・社会の課題解決に活用する、防災・減災を含む社会資本整備や土地利用）の一つであり、京都の希少植物保全にもつながる「雨庭」（rain gardens）の普及に向けた調査研究を行う。

## ●文化や地域活動に関する重点的な取組●

・京都の造園業界と連携した京都が誇る庭園文化の発信、庭園管理を通じた庭園技術の継承  
・京都の歴史文化や生活と密接な関係を持ち、絶滅が危惧される希少植物（フジバカマ、キクタニギク、フタバアオイ、オケラ等）の生息域外保全と普及啓発  
・梅小路公園を含む京都駅西部エリアの各エリアマネジメント組織との連携

2022年6月30日  
(登録番号:00028)

公益財団法人  
京都市都市緑化協会  
森本 幸裕



京都市長  
門川 大作

